

2017年12月

新幹線開業による乗客数の増減と乗客の分析

経営学部 経営学科 幡鎌ゼミ
B4R11116 高橋本樹

【卒業論文概要】

2015年3月に北陸新幹線長野 - 金沢間が開業、利用状況が増加し、観光客が増加している。新幹線という交通インフラで地域間が結ばれ、地方にこれまでにない影響を与えている。

本論文の目的は、こうした新幹線が地域間で結ばれることによって利用状況がどのように変化し、乗客はどのように増減するのか、そして、その乗客はどういった人達なのかを観光、ビジネスといった視点から考えていくことである。

過去の新幹線開業の事例から開業後、新幹線で結ばれた地域間にはどのような影響があるのか調べた。過去の事例から利用状況が増加することが予想され、その理由として心理距離の縮小があると考えた。新幹線によって人々の地域間の心理距離が縮まり、利用率が上がる。この利用率も新幹線の繋がる地域によって変化している。新幹線開業によって利用率が上がる、訪問者数が増加している地域は、金沢、富山、熊本、鹿児島が挙げられる。これらの地域は人口が40万を超える市町村であり、新幹線開業によってより大きな影響があるのはこうした人口の多い市町村である。

こうした情報から2022年度に開業予定である北陸新幹線金沢 - 敦賀間での利用状況を予測した。利用状況が増えることで、宿泊者数も増え、宿泊客を受け入れる体制が必要となる。加えて新幹線の利用者を分析し、観光客・ビジネス客が北陸、福井県を訪れるようになると考えた。観光客の心理距離をより縮められるように、観光地への二次交通網の整備、ビジネスの機会を増やすために、新幹線開業による需要を予め、予測し、対応できるような体制を作ることが必要である。私が特に重要だと考えていることは、受け入れる北陸側は市町村、北陸3県といった広域連携を取ることであり、地域間で協力関係を作り、それぞれの負担を分散、不測の事態への対応力を上げることが必要である。

そして、北陸新幹線金沢-敦賀間以降に開業予定の新幹線について触れる。2046年度に全線開業予定の北陸新幹線、2027年度に一部開業予定のリニア中央新幹線、それぞれが全線開業されることで非常に大きな経済効果が生まれることが予測できるが、この路線が開業するまでには長い月日がある。北陸新幹線は24年、リニア中央新幹線は10年~18年の期間がある。この期間、経済効果が生まれず、開業していない区間の地域は恩恵が受けられない。恩恵の受けられる地域が増えるよう、期間の縮小をしてほしいと感じている。